

## オーシャンディール：進捗報告書 2022

ベルリン、2022年12月15日

2022年6月にエルマウで開催されたG7首脳会議において、ドイツを議長国としてG7は、海洋のために緊急に必要な行動を支援し、野心を高め、現在進行中の海洋ガバナンスに関する国際交渉の合意形成に向けて強い**政治的コミットメント**を示した声明「[オーシャンディール](#)」を採択した。オーシャンディールの**主要な柱は、海洋の生物多様性の保護と環境の水準の維持、そして汚染への対処**からなる。

G7オーシャンディールの採択は、国際的なプロセスで**2015年以降に達成された重要な進展**の表れである。また、海洋ごみ、深海採鉱、国家管轄権外区域の海洋生物多様性（BBNJ）の保存と持続可能な利用の分野において、[2015年の首脳宣言](#)で示された道筋に対する**G7加盟国の一貫したコミットメント**を示すものでもある。[2022年の首脳コミュニケ](#)での公約に則り、本報告書では、オーシャンディールの採択から6カ月間の**進捗の全体的な方向性を概観**する。

2022年8月、国連海洋法条約（UNCLOS）に基づきBBNJの効果的な保存と持続可能な利用を確保するための、国際的な法的拘束力のある条約策定に向けた直近の交渉ラウンドは、**全ての局面で合意への実質的な進展を達成した**。交渉は、妥結には至らなかったものの会期を持ち越し、2023年2月に再開することが決定された。G7各国は、交渉で建設的な関与を続け、そこで**野心的で効果的、公正かつバランスのよい、将来を見据えた国際的な法的拘束力のあるBBNJ協定の締結のために活動するつもり**である。

南極の海洋生物資源の保存に関する委員会（CCAMLR）は、第41回年次会合において、**空間計画（Spatial Planning）及び海洋保護区（MPAs）に関する臨時会合を2023年前半にチリで開催することに合意した**。CCAMLRはさらに、**条約域内の漁船による海洋汚染の低減策に合意し、南極の気候変動に対する緊急行動の重要性を強調する決議も採択した**。CCAMLRの締約国でもあるG7メンバーは、東南極、ウェッデル海、南極半島地域を含む南極大陸周辺海域に代表的なMPAsシステムを確立するというCCAMLRのコミットメントを引き続き強く支持している。

当該地域で予見される海洋鉱物の採掘について予防的アプローチをとるという合意に沿って、G7メンバーは、そこで見込まれる活動の有害な影響から海洋環境を効果的に確実に保護するため、**深海底鉱物の開発に関する規制枠組みの策定にあたり国際海底機構（ISA）に積極的に関与してきた**。これには、**科学的根拠に基づく閾値を含む、効果的かつ拘束力のある環境基準に基づく強固な規制の策定**が含まれる。G7メンバーは、深海の海洋環境と深海採鉱のリスクと潜在的影響に関する強固な科学研究に貢献して

いるが、これは、**海洋環境の効果的な保護は、海底鉱業の環境影響に対する十分な理解があって初めて達成されるとの理解に基づく。**G7メンバーは、ISA理事会で将来の採掘許可の同意を検討する上で、環境が深刻な被害を受けないことを示す知見が重要であると改めて表明している。

2022年12月、G7メンバーはモントリオールの**CBD-COP15**において、**2020年以降の新たなポスト2020生物多様性枠組（GBF）のための交渉**に参加し、沿岸および海洋生態系を含む、効果的かつ公平に管理された保護地域および保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（OECMs）の、生態学的に代表的かつ十分に連結したネットワークを通じて、**2030年までに少なくとも世界の海域の30%を保存または保護する**という行動目標を支持する。すべてのG7メンバーは、CBD-COP15の交渉に野心的かつ効果的な成果を求めており、それが健全で持続的に管理された海洋のために重要であることを強調する。

2022年6月、G7メンバーは、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）のもと開催された「海洋と気候変動に関する対話」第一回年次会合に参加した。G7メンバーは、UNFCCC COP27の決定が、締約国に対して**国別気候目標**およびその実施（国別貢献、長期戦略、適応コミュニケーションなど）の中で、**海洋に関わる行動**を適宜考慮するよう促していること、そして2023年からは**この先の海洋と気候変動の対話は特定のテーマに焦点を当てて進行される**ことを歓迎する。

2022年6月27日から7月1日までリスボンで開催された**国連海洋会議**では、G7メンバーは、持続可能な開発目標14の効果的かつ時宜を得た実施を支援するために、**様々な重要な自発的コミットメント**をした。G7メンバーは、「**持続可能な開発のための国連海洋科学の10年**」に向けて**海洋科学に関する共同作業を進めるとするコミットメント**、特に、海洋科学研究における協働、知識の共有、ベストプラクティスに関する情報交換のメカニズムの強化を通じて、世界、地域、区域、国、地方レベルでの**協力を強めることを改めて表明した**。このために、**G7「海洋の未来に関するイニシアチブ（FSOI）」作業部会は2022年11月29日から30日にかけて会合を開き**、海洋観測の新たなフロンティアや海洋のデジタル・ツインの推進など、関心のある主要分野と協力の可能性について議論した。この交流は、G7のFSOIとGEOMARヘルムホルツ海洋研究センター・キールの支援により英国が主催した2022年5月の国際海洋デジタルツイン・サミットを基盤としている。

G7メンバーはまた、沿岸および海洋生態系の保存、保護、回復のための国内および国際的取り組みに貢献している。G7環境作業部会の一環として、ドイツを議長国として**自然を基盤とした解決策（NbS）に関するワークショップ**を2022年10月20日に開催し、参加者は行動の規模を拡大し、相乗効果を生み出し、協力強化を促すために議論し、**NbS実施に関するベストプラクティスを共有した**。特に、**海洋と沿岸のNbSに焦点が当てられた**。ワークショップの成果に関する[議長サマリー](#)は12月14日に発表された。

11月28日から12月2日にかけて、**G7メンバーは政府間交渉委員会の5回の交渉のうち最初のラウンド（INC-1）に参加し**、プラスチック汚染に取り組む国際的な法的拘束力のある条約を策定することにより、世界中の**プラスチック汚染を終わらせるとのコミットメント**を確認した。12月6日には、G7環境作業部会の一環として、ドイツ大統領府が、**海洋ごみとプラスチック汚染に対処するための国内アプローチとベストプラクティスの方法について議論するワークショップ**を開催した。ワークショップでG7メン

バーは、プロセスの無駄や重複を避け、プラスチック汚染をなくすためのベストプラクティスの施策を共有することの重要性について議論した。そうした施策には、使い捨ての品目や有害物質を含むプラスチックをリユースのためのデポジット返却のしくみやリサイクル促進、マイクロプラスチックに関する措置なども含まれる。G7メンバーはまた、**適切なおみモニタリングに関する情報交換や、税やインセンティブ、環境面での調整金、拡大生産者責任（EPR）スキームなどの市場ベースの手段によるコストの内部的にも利点を見いだした。**G7メンバーは、資源効率に関するG7アライアンスの作業と、放棄、逸失、もしくは投棄された漁具（ALDFG）を含む海洋ごみ及びプラスチック汚染の削減との関係に留意した。とりわけ同フォーラムにおいては、G7メンバーは、OECDの報告書「ゴースト・ギア対策に関するG7の行動に向けて（Towards G7 Action to Combat Ghost Fishing Gear）」に示された、設計基準やベストプラクティス、EPRスキーム、回収の枠組みといったALDFGに対処する活動に関する情報を共有できた。これらを受けて、G7メンバーは、近く開催される海洋環境保護委員会（MEPC）第79回会合を視野に入れ、漁具への識別表示及び漁具の損失・排出の報告に関するIMO内の議論に関与することに確認した。

2022年9月、G7メンバーは、国連食糧農業機関（FAO）の第35回漁業委員会（COFI）に参加し、FAOの寄港国措置に関する協定の世界規模の批准と実施を促進するなど、国際・多国間協力を強化し、**違法・無報告・無規制（IUU）漁業を終わらせるというオーシャンディールのコミットメントを再確認した。**G7メンバーは、COFIによる**漁業管理に関する小委員会の設立の提案**を歓迎するとともに、FAOの責任ある漁業のための行動規範の枠組みにおける新しい制度として、**積み替えに関する自主ガイドラインをCOFIが支持したことを歓迎する。**これは、IUU漁業を撲滅するために、**トレーサビリティ、透明性及びコンプライアンスを向上させるという我々のコミットメントに向けた一歩である。**

G7は、**世界貿易機関（WTO）第12回閣僚会議（MC12）における漁業補助金に関する協定の締結を、**海洋の持続可能性のための大きな前進であると考えている。G7メンバーは、この協定を受け入れるための国内手続を速やかに完了させ、次のWTO閣僚会議までに勧告を行うことを目的として、過剰漁獲能力及び乱獲に関する追加的な規定について建設的な交渉に関与することを約束する。G7は、一部のG7メンバーから、途上国が協定を実施支援するWTOの漁業資金メカニズム信託基金に貢献する意思が表明されたことを歓迎する。

## Ocean Deal: Progress Report 2022

Berlin, 15 December 2022

At the G7 Leaders' Summit in Elmau in June 2022, the G7 under the German presidency adopted the [Ocean Deal](#), a strong statement of political commitments which supports urgently needed ocean action, raises ambition and helps to build consensus for ongoing international negotiations on ocean governance. **Protecting marine biodiversity, preserving environmental standards and fighting pollution form the Ocean Deal's main pillars.**

The adoption of the G7 Ocean Deal demonstrates the **significant progress achieved since 2015** in international processes. It also illustrates **the consistent commitment of the G7 members** to the paths outlined in their [2015 Leaders' Declaration](#) in the areas of marine litter, deep-sea mining and conservation and sustainable use of marine biological diversity of areas beyond national jurisdiction (BBNJ). As pledged in the [2022 Leaders' Communiqué](#), this report gives an **overview of the general direction of progress** in the six months since the Ocean Deal's adoption.

In August 2022, the latest round of negotiations towards an international legally binding instrument under the United Nations Convention on the Law of the Sea (UNCLOS) to ensure the effective conservation and sustainable use of BBNJ **achieved substantial progress on all dimensions of the agreement**. Although it was not possible to conclude the negotiations, it was decided to suspend the session, which will resume in February 2023. G7 members will continue their constructive engagement within the negotiations and **work with a view to concluding an ambitious, effective, fair, balanced and future-proofed international legally binding BBNJ agreement** on that occasion.

At its 41<sup>st</sup> annual **meeting, CCAMLR** (Commission for the Conservation of Antarctic Marine Living Resources) **agreed to hold an extraordinary meeting on Spatial Planning and Marine Protected Areas (MPAs)** in Chile in the first half of 2023. CCAMLR also agreed to measures to **reduce marine pollution from fishing vessels** in the Convention area and **approved a resolution** stressing the importance of **urgent action on climate change in Antarctica**. The G7 members that are Parties to CCAMLR have continued their strong support for the commitment by CCAMLR to establish a representative system of MPAs in the waters around Antarctica, including in East Antarctica, the Weddell Sea and the Antarctic Peninsula region.

In line with its agreement to take a precautionary approach to potential mining of marine minerals in the Area, G7 members have actively engaged with the International Seabed Authority (ISA) in the development of a regulatory framework for exploitation of deep seabed minerals to ensure the effective protection of the marine environment from the harmful effect of potential activities in the Area. This includes **the development of robust regulations based on effective and binding environmental standards, including science-based threshold values**. G7 members are contributing to robust scientific research on the deep sea marine environment and on the risk and potential impacts of deep sea mining, as they understand the **effective protection of the marine environment can only be achieved with sufficient understanding of the environmental impacts of seabed mining**. G7 members reiterate that knowledge demonstrating the environment will not be seriously harmed is critical for considering their consent for future mining permits in the ISA council.

In December 2022, G7 members will **engage in negotiations for a new post-2020 Global Biodiversity Framework (GBF) at the CBD-COP15** in Montreal, supporting an action target to **conserve or protect at least 30% globally of sea areas by 2030** through ecologically representative, well-connected networks of effectively and equitably managed protected areas and other effective area-based conservation measures (OECMs), including coastal and marine ecosystems. All G7 members **call for an ambitious and effective outcome to the CBD-COP15 negotiations** and underline its importance for a healthy, sustainably managed ocean.

In June 2022, G7 members took part in the first annual “Ocean and Climate Change Dialogue”<sup>392</sup> under the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC). G7 members welcome the UNFCCC COP27 decision to encourage Parties to consider, as appropriate, **ocean-based action in their national climate goals** and in the implementation of these goals, including but not limited to nationally determined contributions, long-term strategies and adaptation communications, and that, from 2023, **future ocean and climate change dialogues will be facilitated to focus on specific topics**.

At the **UN Ocean Conference, held** in Lisbon from 27 June to 1 July 2022, G7 members made a **range of important voluntary commitments** to support the effective and timely implementation of Sustainable Development Goal 14. G7 members **reiterated their commitment to advance the collective work on ocean science towards the UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development**, in particular to enhance cooperation at the global, regional, sub-regional, national and local levels through strengthening mechanisms for collaboration, knowledge-sharing and exchange of best practices in marine scientific research. To this end, the **G7 Future of the Seas and Oceans Initiative (FSOI) Working Group met on 29-30 November 2022** and discussed key areas of interest and potential cooperation, including new frontiers in ocean observation and advancing a digital twin of the ocean. This exchange built on the May 2022 International Digital Twin of the Ocean Summit, hosted by UK with support from the G7 FSOI and the GEOMAR Helmholtz Centre for Ocean Research Kiel.

G7 members are also contributing to national and international efforts to conserve, protect and restore coastal and marine ecosystems. As part of the G7 Environmental Working Group, the German presidency hosted a **workshop on nature-based solutions (NbS)** on 20 October 2022 at which participants discussed and **shared best practices on NbS implementation** in order to scale up action, create synergies and incentivise increased cooperation. A **special focus was placed on marine and coastal NbS**. A [Chair’s Summary](#) of the workshop outcomes was released on 14 December.

From 28 November to 2 December, **G7 members participated in the first of five rounds of negotiations** of the Intergovernmental Negotiating Committee (INC-1), confirming their **commitment to end plastic pollution** worldwide by developing an international legally binding instrument that will tackle plastic pollution. On 6 December, as part of the G7 Environmental Working Group, the German presidency hosted a **workshop to discuss domestic approaches and best practice measures to combat marine litter and plastic pollution**. During the workshop, G7 members discussed the importance of not preempting or duplicating processes and of sharing best practice measures to end plastic pollution, including those that target single-use items and plastics containing harmful substances, such as through multi-use deposit return schemes, increased recycling and measures on microplastics. G7 members also **saw benefit in informational exchanges on adequate litter monitoring and on cost internalization** by means such as market-based instruments, e.g. taxes or incentives, eco-modulated fees and extended producer responsibility (EPR) schemes. G7 members noted the relationship between the work of the G7 Alliance on Resource Efficiency and reducing marine litter and plastic pollution, including with respect to abandoned, lost and otherwise discarded fishing gear (ALDFG). In that forum among others, G7 members could share information on activities that address ALDFG such as design standards or best practices, EPR schemes, and a framework for collection, as set out in the OECD report “*Towards G7 action to combat ghost fishing gear*”. In this context, G7 members noted their engagement in the discussions on fishing gear marking and reporting of loss or discharge of fishing gear within the

International Maritime Organization, also in view of the upcoming 79<sup>th</sup> session of the Marine Environment Protection Committee (MEPC).

In September 2022, G7 members participated in the 35th Session of the Food and Agriculture Organisation (FAO) Committee on Fisheries (COFI) and **reaffirmed their Ocean Deal commitment to ending illegal, unreported and unregulated (IUU) fishing** through strengthened international and multilateral cooperation, such as promoting global ratification and implementation of the FAO Agreement on Port State Measures. G7 members welcome COFI's **proposal to establish a Sub-Committee on Fisheries Management and its endorsement of the Voluntary Guidelines for Transshipment as a new instrument** within the framework of the FAO Code of Conduct for Responsible Fisheries. It is a **step towards our commitment to increase traceability, transparency, and compliance** in order to end IUU fishing.

The G7 consider the **conclusion of the Agreement on Fisheries Subsidies at the 12<sup>th</sup> Ministerial Conference (MC12) of the World Trade Organization (WTO)** as a major step forward for ocean sustainability. G7 members commit to swiftly complete their domestic procedures to accept the Agreement and to engage in constructive negotiations on additional provisions on overcapacity and overfishing with a view to making recommendations by the next WTO Ministerial Conference. The G7 welcomes the willingness expressed by some G7 members to contribute to the fisheries funding mechanism trust fund at the WTO to help developing countries to implement the agreement.